

論 説

英米法における合同的債務	田中 和夫	1	1
横領罪の客体	吉田 常次郎	1	17
刑事責任論に対する一私案	出射 義夫	1	28
議決権(拘束)契約	青木 英夫	1	41
ドミニオン中立権論・序説	松田 幹夫	1	56
——ブリティッシュ・コモンウェルスの機能的変化を探る手がかりとして——			74
扶養の理論(一)——社会保障法序説	松嶋 由紀子	1	75
The Fall of the Concept of Nature in Medieval Japan	白鳥 令	1	112
——A Comparative Study—— (in English)			126
有価証券と印章偽造罪	吉田 常次郎	2	1
殺人罪における故意	出射 義夫	2	19
コンツェルンにおける吸収合併と株主保護	青木 英夫	2	37
植民地の中立権からみたブリティッシュ帝国	松田 幹夫	2	57
騷 擾 罪	吉田 常次郎	3	1
ドミニオン中立権からみたブリティッシュ・コモンウェルス	松田 幹夫	3	15
政治的文化的枠組による政治意識の多次元解析(Ⅱ)	白鳥 令	3	55
			133

立証責任に関する判例の研究……………	田中	和夫	4	1	}	38
——最高裁判所の下における判例——						
カルピンの奴隸的意思説……………	出射	義夫	4	39	}	47
株券をめぐる若干の問題……………	青木	英夫	4	49		
自動的交戦原則の検討……………	松田	幹夫	4	59	}	73
政治のことば……………	白井	久和	4	75		
——戦後の日本外交に関する一つのアプローチ——						
イスラエルの法と刑法の権威……………	出射	義夫	5	1	}	22
少年法改正要綱と「青年」の事件処理手続……………	清野	惇	5	23		
イギリス王冠の性質……………	松田	幹夫	5	49	}	71
改正刑法草案における公務員機密漏示罪について……………	松本	一郎	5	73		
開講の辞(昭和四九年度)……………	出射	義夫	6	1	}	13
——ジャン・カルヴァンの刑法思想——						
憲法改正禁止規定について……………	清宮	四郎	6	15	}	34
イギリス離婚法の沿革……………	田中	和夫	6	35		
コンピュータによる情報蓄積・検索システムと著作権……………	古沢	博	6	79	}	111
アメリカ合衆国における行政事件訴訟の原告適格……………	金子	正史	6	113		
——Data Processing 以後の連邦裁判所の動向——						
開講の辞(昭和五〇年四月)……………	出射	義夫	7	1	}	13
——アリストテレスにおける倫理と政治——						
少年法改正と植松試案……………	清野	惇	7	15	}	34
——少年審判手続における検察官関与の問題をめぐる——						

紛争分析の視角……………	白井久和	7	35	61
聖徳太子十七条憲法の時代的背景……………	出射義夫	8	1	15
——昭和五一年度開講の辞——				
従属的共同正犯……………	出射義夫	8	17	28
一時借地権……………	伊東秀郎	8	29	47
——その認定をめぐる実務上の問題点——				
宅地建物取引業者の報酬請求権……………	椎原国隆	8	49	72
新株発行事項の公示をめぐる問題……………	青木英夫	8	73	82
聖徳太子憲法の本文注釈……………	出射義夫	9	1	18
他人の著作物の利用に関する著作権法上の諸問題……………	古沢博	9	19	46
解除の効果についての覚書……………	平井一雄	9	47	62
ドイツ的刑法理論を越えて日本の刑法理論に……………	出射義夫	10	1	14
——開講の辞(昭和五一年度)——				
労働者災害と不法行為……………	高島良一	10	15	59
国家性からみたドミニオンの中立権……………	松田幹夫	10	61	82
わが国古代の刑法……………	出射義夫	11	1	21
イギリスにおける離婚の際の財産分与……………	田中和夫	11	23	44
平和学の可能性……………	白井久和	11	45	77
——平和研究の発展と課題——				
法人税法第二二条第四項とたな卸 資産評価規定……………	相京博士	11	79	91
エドモンド・バークとアメリカ問題……………	加藤健一郎	11	93	113
——帝国主義の問題と自由主義的側面——				

刑法における義理と人情……………	出射 義夫	12	1	17
——昭和五四年度開講の辞——				
天皇の法的地位についての疑問……………	大宮 莊策	12	19	37
——問題提起と各国の状況紹介を中心として——	春日 偉知郎	12	39	62
Bronn判決以後のコンピュータ・プログラムの特許性……………	古沢 博	13	1	32
英米刑法における「利益侵害論」……………	奈良 俊夫	13	33	49
——エーザーの見解を中心として——				
地域的に条件づけられた外国実質法規の適用……………	横山 潤	14	1	23
日米の最高裁判所の比較……………	田中 和夫	15	1	18
時機に後れた攻撃防禦方法の却下……………	春日 偉知郎	15	19	65
——西ドイツ簡素化法(Vereinlichungs novelle)の問題点——				
ヤーコプ・グリムにおける童話と法……………	堅田 剛	15	67	87
——歴史法学研究(一)——				
法の内なるポエジー……………	堅田 剛	16	1	21
——歴史法学研究(二)——				
代理受領の法律関係(一)……………	辻 伸行	16	23	57
『ドイツ法古事誌』と『フランス法の起源』……………	堅田 剛	17	1	21
——歴史法学研究(三)——				
代理受領の法律関係(2・完)……………	辻 伸行	17	23	59
アメリカにおける憲法解釈についての二つの見解——憲法の変遷に関連して——	田中 和夫	18	1	20
採用における差別待遇……………	高島 良一	18	21	41

人権の衝突とその調整について……………	大宮 莊策	43
民事上の紛争に対する行政委員会の裁定の法律的性質……………	綿貫 芳源	85
会社法におけるコンツェルン法的構成の必要性(上)……………	青木 英夫	141
——山崎製パン事件第一審判決をモメントとして——		159
ドミニオン使節権の展開……………	松田 幹夫	161
西ドイツの軍隊と兵士の人権……………	山内 敏弘	195
賃貸中の建物の建物買取請求について……………	辻 伸行	223
——東京高判昭和五六年六月二日判例時報一〇一〇号四九頁の検討を中心として——		244
明治外交に尽した御雇い外国人スチープンスのこと……………	刈 田 徹	245
一九七二年ヨーロッパ共同体法九条一項とイギリス会社法理の修正……………	石山 卓磨	1
——イギリス法における事実上の取締役・再論——		33
労働法律関係と労働契約(一)……………	高 島 良一	1
航空事故調査と刑事手続……………	松本 一郎	29
コンツェルン関係における大株主の責任(1)……………	青木 英夫	77
——会社法におけるコンツェルン法的構成の必要性(上)(2)——		102
英米刑法における「利益侵害論」(2)完……………	奈良 俊夫	103
——エーザーの見解を中心として——		130
アウグステイヌスにおける「教会と国家」……………	柴田 平三郎	131
大川周明における改革思想の形成と本質……………	刈 田 徹	163
労働法律関係と労働契約(二)……………	高 島 良一	1
The Development of Japanese Family Law……………	Yukiko Matsushima	37
——A Personal Appraisal of Japanese Family Law——		54

コンピュータ・ソフトウェアと著作権	古沢 博	21	55
子会社の締結した契約についての親会社の責任(上)	青木 英夫	21	71
——コンツェルン関係における大株主の責任(2)——			86
財産罪における罪数問題(1)	奈良 俊夫	21	87
労働法律関係と労働契約(三)	高島 良一	22	1
Some recent trends of the Public Injury or Environmental Law in Japan	綿貫 芳源	22	25
子会社の締結した契約についての親会社の責任(下)	青木 英夫	22	61
——コンツェルン関係における大株主の責任(3)——			75
P KOに対するカナダの貢献	松田 幹夫	22	77
核軍拡とボン基本法(二)	山内 敏弘	22	111
——西ドイツにおけるパーシングII等の配備に関連して——			153
労働法律関係と労働契約(四・完)	高島 良一	23	1
現代韓国法制度の概観	劉 尚炫	23	49
——憲法構造を中心にして——			59
16世紀フランス私法学と体系法学者ドノーの私法理論	西村 隆誉志	23	61
——損害回収のアクティオをめぐる——			130
法人格否認の法理とコンツェルン関係	青木 英夫	24	1
——コンツェルン関係における大株主の責任(4)——			24
「ローマ法学」のルネサンス的対応	西村 隆誉志	24	25
——近世私法学における日・ドノーの損害(態様)論——			78
結合企業のサバイバルのための活動と一人会社	青木 英夫	25	1
《君主の鑑》(1)	柴田 平二郎	25	72
			24

事実上の機関	青木 英夫	1	42
——Urusula Steinの所論——			
《君主の鑑》(2)	柴田 平三郎	43	86
会社法改正と国際摩擦	青木 英夫	1	30
英国における近時の派生訴訟事例について	石山 卓磨	31	53
THE ROLE OF PUBLIC LAW IN JAPANESE PRIVATE INTERNATIONAL LAW	横山 潤	55	71
ギールケ、あるいは法の内なるフォーム	堅田 剛	73	95
《君主の鑑》(3)	柴田 平三郎	97	120
MENSCHENRECHTE UND MASSENLEBEND	フランツ・ヌシユラー	121	154
事実上の取締役とコンツェルン関係	青木 英夫	1	46
——コンツェルン関係における大株主の責任——			
イエーリング、あるいは冗談法学	堅田 剛	47	68
事実上のコンツェルンにおけるコンツェルン指揮の限界	青木 英夫	1	31
——商法294条12のコンツェルン法的構成を指して(一)——			
——コンツェルン関係における大株主の責任(6)——(一)——			
U.K. Divorce Law Reform	松嶋 由紀子	33	74
——Grounds for Divorce——			
《君主の鑑》(4—1)	柴田 平三郎	75	88
アイケ・フォン・レプゴウ、あるいは法の数え歌	堅田 剛	89	111
「所有の意思」の判定基準について(一)	辻 伸行	113	153
——不動産所有権の取得時効を中心にして——			
ワイマール憲法における政党国家論	加藤 一彦	155	189
——O・ケルロイター、G・ラートブルフ、R・トーマの場合——			

事実上のコンツェルンにおけるコンツェルン指揮の限界……………	青木英夫	30	1
——商法294条12のコンツェルン法的構成を指して(二・完)——			
——コンツェルン関係における大株主の責任(6)——(2)——			
《君主の鑑》(4—2)……………	柴田平三郎	30	59
テイボー、あるいは法のコラール……………	堅田剛	30	89
事実上のコンツェルン指揮の責任(二)……………	青木英夫	31	1
——西ドイツ株式法における加重的コンツェルンをめぐる論争をモメントとして——			
——コンツェルン関係における大株主の責任(7)——(1)——			
天皇の代替わりと日本国憲法の立場……………	山内敏弘	31	33
《君主の鑑》(5)……………	柴田平三郎	31	59
ガンズ、あるいは法の普遍史……………	堅田剛	31	125
医療契約の当事者について……………	辻伸行	31	149
事実上のコンツェルン指揮の責任(二・完)……………	青木英夫	32	1
——ドイツ株式法における加重的コンツェルンをめぐる論争をモメントとして——			
——コンツェルン関係における大株主の責任(7)——(2)——			
ヘーゲル、あるいは哲学的法学……………	堅田剛	32	51
従属的コンツェルン会社における取締役の利益相反(二)……………	青木英夫	33	1
——コンツェルン関係における大株主の責任(8)——(1)——			
湾岸戦争と政府の「貢献」策……………	山内敏弘	33	25
——批判的検討——			
《君主の鑑》(6)……………	柴田平三郎	33	49
サヴィニー、あるいは法の文法学……………	堅田剛	33	127
変貌する社会に於ける親子法の展開(一)……………	松嶋由紀子	33	149
——国際家族法学会第7回世界会議に世界の動きを探る——			

建築基準法の行政法的特質	荒	秀	34	1	32
CONSTITUTION AND REQUIREMENTS OF DEMOCRACY	山内	敏弘	34	33	43
アメリカ行政訴訟における非公式行為の紛争の成熟性	金子	正史	34	45	71
日米安保条約の締結と日本の自衛権	古関	彰一	34	73	99
「カルチャー・ギャップ」と刑事責任	奈良	俊夫	34	101	118
——“Cultural Defense”の検討——(一)					
従属的コンツェルン会社における取締役の利益相反(二・完)	青木	英夫	34	119	139
——コンツェルン関係における大株主の責任(8)——(2)——					
《君主の鑑》(7)	柴田	平三郎	34	141	172
ヤーコプ・グリムとフランクフルト国民議会	堅田	剛	34	173	196
ドイツ基本法における政党の憲法的地位論	加藤	一彦	34	197	250
資産および業務の混和と社員の有限責任(二)	青木	英夫	35	1	22
——アメリカ法およびドイツ法を中心として——					
——コンツェルン関係における大株主の責任(9)——(1)——					
穂積陳重の歴史法学	堅田	剛	35	23	47
——進化論から文体論へ——					
過失犯の罪数	只木	誠	35	49	89
資産および業務の混和と社員の有限責任(二・完)	青木	英夫	36	1	22
——アメリカ法およびドイツ法を中心として——					
——コンツェルン関係における大株主の責任(9)——(2)——					
穂積陳重の法典論	堅田	剛	36	23	49
——法典の「形体」について——					
転換社債・新株引受権附社債の構造と株主の地位	明田川	昌幸	36	51	127

支配株主の信認的義務(一)……………	青木英夫	37	1	22
——イギリス法およびアメリカ法を中心として——				
——コンツェルン関係における大株主の責任(10)——(1)——				
穂積陣重の法思想……………	堅田剛	37	23	47
——立法と法学の使命について——				
《君主の鑑》(8)……………	柴田平三郎	37	49	98
混合的包括一罪論の前提……………	只木誠	37	99	117
支配株主の信認的義務(二・完)……………	青木英夫	38	1	37
——イギリス法およびアメリカ法を中心として——				
——コンツェルン関係における大株主の責任(10)——(2)——				
牧野英一の法理学……………	堅田剛	38	39	63
——法律進化論から自由法論へ——				
「カルチャー・ギャップ」と刑事責任……………	奈良俊夫	38	65	79
——「Cultural Defense」の検討——(2)				
Children's Rights in Japan……………	松嶋由紀子	38	81	115
——Controversial Issues with regard to the UN Convention on the Rights of the Child				
イギリスにおける会社グループの債務(一)……………	青木英夫	39	1	28
——コンツェルン関係における大株主の責任(11)——(1)——				
総合設計制度批判……………	荒秀	39	29	50
——建築基準法の一断面——				
牧野英一のネクロロジ……………	堅田剛	39	51	76
——自由法論を偲んで——				
イギリスにおける会社グループの債務(二・完)……………	青木英夫	40	横1	23
——コンツェルン関係における大株主の責任(11)——(2)——				

非典型担保論史（譲渡担保論史） ——明治初期から昭和二〇年まで——	平井一雄	1	34
独逸学協会学校専修科 ——ある法律学校の歴史——	堅田剛	35	68
石坂音四郎の民法学とドイツ民法理論の導入 ——ドイツ民法理論導入全盛期の民法学の一断面——	辻伸行	69	134
民法学の方法 ——未弘民法学までの素描——	後藤卷則	135	172
民法学の転回と新展開（1） ——大正一〇年～昭和二〇年の民法学史——	水本浩	173	232
陪審制度再導入の検討（上）	綿貫芳源	233	291
A S E A N ・ A P E C ・ E A E C ——アジア太平洋の安全保障と経済協力——	萩原宜之	1	52
米国の対外政策決定における議会の役割（1）	宮里政玄	53	88
会社グループの規整を巡る若干の問題（二） ——コンツェルン関係における大株主の責任（12）——	青木英夫	41	114
アイルランドの P K O 参加	松田幹夫	41	114
冷戦期の「永い平和」と核兵器	星野昭吉	41	164
戦後日韓関係形成の一側面 ——日韓会談における韓国の交渉態度——	森山茂徳	41	200
西周訳『権利争闘論』をめぐる	堅田剛	41	233
関東大震災と借地借家臨時処理法（大正一三年法律第一六号）（上）	小柳春一郎	235	283
「目的物の返還不能と解除権の帰趨」に関する覚書	花本広志	41	303

陪審制度再導入の検討(下・完)……………	綿貫芳源	41	305
民法学の転回と新展開(2)……………	水本浩	41	423
——大正一〇年、昭和二〇年の民法学史——			
民際外交の展開と地球政治……………	白井久和	41	446
——国際主体としてのNGOと自治体を中心に——			
建築審査会の法と実務……………	荒秀	42	66
二・二六事件北・西田裁判研究……………	松本一郎	42	184
『権利のための闘争』と『強者の権利の競争』……………	堅田剛	42	215
——加藤弘之のイエーリング解釈をめぐって——			
関東大震災と借地借家臨時処理法(大正一三年法律第一六号)(中)……………	小柳春一郎	42	296
韓国における行政法の現状と課題……………	徐元宇	42	312
民法学の転回と新展開(3)「完」……………	水本浩	42	360
——大正一〇年、昭和二〇年の民法学史——			
米国の対外政策における議会の役割(2—完)……………	宮里政玄	43	29
純粹持株会社の規制および大規模会社の株式保有規制の緩和に関して……………	青木英夫	43	20
二・二六事件湯河原班裁判研究……………	松本一郎	43	77
イギリス領事関係法の展開……………	松田幹夫	43	106
The Changing State Sovereignty in the Global System……………	星野昭吉	43	68
ソールズベリーのジョンにおける人文主義の意味……………	柴田平三郎	43	144
国際的心訴管轄をめぐる諸問題(一)……………	森勇	43	155
——直接管轄と間接管轄の非対称?——			
日清戦争時の日本軍部の対韓政策……………	森山茂徳	43	197

加藤弘之の国法学……………	堅田 剛	43	199
——ブルンチュリ『国法汎論』との関連で——			229
関東大震災と借地借家臨時処理法（大正一三年法律第一六号）（下）……………	小柳 春一郎	43	231
フランスの対アフリカ政策の新展開……………	増島 建	43	301
——冷戦後世界への適応——			355
開発許可の法と実務（二）……………	荒 秀	44	1
——スイス新株式法の結合企業法制（コンツェルン規定）をモメントとして——	青木 英夫	44	横 1
建築請負人の建物敷地に対する商事留置権……………	平井 一雄	44	95
憲法九条成立の意図とその受容……………	古関 彰一	44	117
——理性と言語、社会の起源をめぐって——	柴田 平三郎	44	145
国際的応訴管轄をめぐる諸問題（二）……………	森 勇	44	191
——直接管轄と間接管轄の非対称——			227
ロエスラーと独逸学協会……………	堅 田 剛	44	229
——明治憲法との関連で——			262
国税庁の発足と税務行政……………	小柳 春一郎	44	263
労働契約法制の課題……………	土田 道夫	44	321
国連経済社会理事会とNGOとの協議取決めの設定……………	鈴木 淳一	44	321
——グローバルな「市民社会」の国連への参加——			377
Child Abuse in Japan……………	松嶋 由紀子	45	横 1
——The Current Situation and Proposed Legal Changes			40
二・二六事件行動隊裁判研究（一）……………	松本 一郎	45	1
			91

コーポレート・ガバナンスの果て(二)……………	青木 英夫	45	横 41
—— 国際関係理論をめぐる論争から ——	星野 昭吉	45	93
『ポリクラティクス』という書物……………	柴田 平三郎	45	145
—— ソールズベリのジョンの政治思想研究序説 ——	柴田 平三郎	45	205
西哲学物語、あるいは明治憲法制定始末……………	堅 田 剛	45	207
人格権の財産権的側面……………	堅 田 剛	45	239
—— ハブリシティ価値の保護に関する総論的考察 ——	花本 広志	45	241
相殺権濫用論と相殺要件に関する一考察(二)……………	石垣 茂光	45	261
コーポレート・ガバナンスの果て(二・完)……………	青木 英夫	46	261
—— ソールズベリのジョンにおける「教会と国家」 ——	柴田 平三郎	46	23
△血の滴る剣▽……………	柴田 平三郎	46	45
—— ソールズベリのジョンにおける「教会と国家」 ——	柴田 平三郎	46	45
ロエスラーとモッセ……………	堅 田 剛	46	47
—— ドイツ人法律顧問と明治法制 ——	堅 田 剛	46	81
Tateinheit und Taunehheit in materiellen Recht und im Verfahrensrecht bei Teilnahme……………	只 木 誠	46	横 25
開発許可の法と実務(二)……………	只 木 誠	46	51
相殺権濫用論と相殺要件に関する一考察(二・完)……………	荒 秀	46	83
代理権の客観的濫用に関する一考察……………	石垣 茂光	46	129
—— 代理人に背任的意図がない場合 ——	平山 也寸志	46	233
National Policy for Families and the Elderly……………	松嶋 由紀子	47	横 1
—— Evolving from Family Care to Public Support ——	松嶋 由紀子	47	29
二・二六事件行動隊裁判研究(二)……………	松本 一郎	47	1
	松本 一郎	47	79

有限責任のフェミニニズム的展望(一)	青木 英夫	47	横 31	52
Globalization and Global Governance	星野 昭吉	47	横 53	94
へ君主の鑑	柴田 平三郎	47	81	158
——『ポリクラティクス』における君主と暴君——	堅 田 剛	47	159	196
ガンズ法、あるいは白鳥と鴛鳥の物語	只 木 誠	47	197	228
共犯の罪数	一之瀬 高博	47	229	259
産業事故の越境影響に関する国連欧州経済委員会条約について	増 島 建	47	261	277
——対外援助の今後に関する一考察——	荒 秀	47	279	448
開発許可の法と実務(三)完	平井 一雄	48	1	33
裁判上の催告について	柴田 平三郎	48	35	75
へ陰画としての暴君	堅 田 剛	48	77	111
——ソールズベリのジョンの暴君殺害論——	山田 恒久	48	113	133
学術論文・宮武外骨の法パロデー	明田川 昌幸	48	135	166
国際裁判管轄の合意	櫻井 雅夫	49	1	24
定款により譲渡制限された株式の譲渡・競売と従前の株主の地位	星野 昭吉	49	横 1	52
——あるタクシー会社をめぐる一連の判決を素材にして——	後藤 卷則	49	25	44
国際経済法再考	小柳 春一郎	49	横 53	71
Globalization and the Agent - Structure Problem				
消費者契約における契約締結過程の適正化と情報提供義務(一)				
地上権者への固定資産税課税についての沿革的考察				
——「定期所有権」と固定資産税				

外国人の当事者能力	山田 恒久	49	45
Europe, America, and Developing Countries: The Transformation of the O.E.C.C. to the O.E.C.D. (1959-1961)	増 島 建	49	横 73 } 101
伝統的国際法の国内法補足的性質について	鈴木 淳一	49	73 } 101
——武力紛争法・国際人道法を例として——(一)			
アメリカにおける「市民」の定義の歴史的意義	高佐 智美	49	103 } 136
——岐路に立つ修正第十四条——			
相殺契約に関する一考察(一)	石垣 茂光	49	137 } 176
P.K.O.に対するアイルランドの貢献	松田 幹夫	50	1 } 28
「法益論」の再検討(一)	奈良 俊夫	50	29 } 63
《書物に殉じた鈍牛》	柴田 平三郎	50	65 } 91
——トマス・アクイナスの思想世界			
韓国における憲法裁判と行政訴訟の関係	徐 元 字	50	93 } 118
相殺契約に関する一考察(二)	石垣 茂光	50	119 } 168
《歴史舞台の上のトマス》	柴田 平三郎	51	1 } 35
——中世の夏Ⅱ十三世紀			
グローバル化と地域主義の展開	星野 昭吉	52	1 } 45
——四政治社会空間の構造と複合的地域の構造——			
《神学大全》	柴田 平三郎	52	47 } 78
——思想のゴシック建築——			
O.E.C.D.(経済協力開発機構)と民主化	増 島 建	52	79 } 103
——冷戦後世界への国際組織の対応——			

伝統的国際法の国内法補足的性質について	鈴木 淳一	52	105
——武力紛争法・国際人道法を例として——(二)			149
世界政治における脱国家主体	星野 昭吉	53	1
十三世紀ハアリストテレス革命の史観とトマス・アクィナス	柴田 平三郎	53	49
一事不再理効の客観的範囲について	只 木 誠	53	89
——罪数判断との対応を維持すべきか——			129
年俸制をめぐる法律問題	土田 道夫	53	131
——能力主義賃金制度の側面——			195
ポスト「国民国家」におけるCitizenship概念の新たな展開	高佐 智美	53	197
——イギリスを例に——(二)			225
中東欧の法文化と体制移行	鈴木 輝二	53	227
安保体制の成立と構造(一)	古 関 彰一	54	1
離婚の国際裁判管轄	山 田 恒久	54	45
伝統的国際法の国内法補足的性質について	鈴 木 淳一	54	79
——武力紛争法・国際人道法を例として——(三・完)			146
ポスト「国民国家」におけるCitizenship概念の新たな展開	高佐 智美	54	147
——イギリスを例に——(二)			168
神の善性(Bonitas Dei)としての《この世と人間》	柴田 平三郎	55	1
——トマス政治思想の神学的・形而上学的基礎——			55
集合債権譲渡担保の有効性について	太 矢 一彦	55	57
アイルランドのコモンウェルス脱退	松 田 幹夫	56	1
——リーディング・ケースを中心に——			32
Changing Bankruptcy Practice and Law in Japan: Its Future Effects	高木 新一郎	56	1
			18

地球環境政治と地球公共財……………	星野昭吉	56	横19
——地球環境保全としての地球公共財——			}
国家免除における政治的区分の問題……………	松田幹夫	57	1}
——リーディング・ケースを中心に——			35}
ポスト「国民国家」における Citizenship 概念の新たな展開……………	高佐智美	57	37}
——イギリスを例に——(三・完)			66}
「共謀罪」及び「共謀」概念とコンスピラシーの法理……………	奈良俊夫	57	67}
罹災都市借地借家臨時処理法についての議会審議……………	小柳春一郎	58	1}
Globalization and the Formation of Global Politics……………	星野昭吉	58	1}
国家免除における国家関係機関の問題……………	松田幹夫	59	横1}
——リーディング・ケースを中心に——			58}
人間 (homo)・社会 (societas)・国家 (civitas)……………	柴田平三郎	59	39}
——トマス政治思想の基礎構造——			84}
国家免除における放棄の問題……………	松田幹夫	60	1}
——イギリスの場合——			25}
法廷内写真の撮影・公表と報道・取材の自由……………	右崎正博	60	27}
——和歌山保険金詐欺事件勾留理由開示裁判の法廷内写真をめぐって——			52}
韓国地方自治制度の歴史的展開……………	鄭在吉	60	53}
罪数概論……………	香城敏磨	61	1}
プロジェクト・ファイナンスにみる新しい資産担保手段と法律上の問題点……………	長谷川貞之	61	59}
グローバル社会における平和学の枠組みと課題……………	星野昭吉	61	横1}
L'abstraction de la promesse non causée de payer une somme d'argent en droit privé japonais……………	柴崎暁	61	横65}
			82}

アイデンティティ・グローバル政治 ——対称的・非対称的紛争構造——	星野昭吉	64	横75
医療事故への刑事法的対応に関する考察 ——実体法的対応と手続法的対応——	清水真	64	横127
企業再編法制における公正と効率 ——株式交換・株式移転制度を素材として——	周劍龍	64	横139
犯罪被害者の訴訟参加(一)	滝沢誠	64	横161
法解釈学の重層性 ——文献学・法解釈・自然法——	藤田貴宏	64	横173
外交免除における放棄の問題 ——リーディング・ケースを中心に——	松田幹夫	65	横1
欧州連合とフランスの難民認定制度(一)	大藤紀子	65	横1
刑事弁護過誤の判定基準と救済措置(下)	清水真	65	横27
人文主義的法解釈 ——ジャック・ゴドフロワ「消費貸借論」の方法論的分析——	藤田貴宏	65	横41
明治二十年のファンシーボール ——あるいは鹿鳴館外交の挫折について——	堅田剛	66	横1
担保のための併存的債務引受(担保的債務加入)における 原債務と加入債務の関係について(一)	遠藤研一郎	66	横31
犯罪被害者の訴訟参加(二)	滝沢誠	66	横1
ローマ法の批判的実用化 ——シーモン・ファン・フルーネウエーヘンの法文廃止論——	藤田貴宏	66	横23
ヤーコプ・グリムの『ドイツ法古事誌』 ——ドイツ学と国学のあいだ——	堅田剛	67	横1

担保のための併存的債務引受（担保的債務加入）における 原債務と加入債務の関係について（二・完）……………	遠藤 研一郎	67		33
戦後の語り方……………	雨宮 昭一	67	横 1	18
——サクセスストーリーとナルシズムから「学問」へ——				
ポワソナード民法草案における所有権の「絶対性」……………	小柳 春一郎	67	横 19	73
——非制約性と対抗可能性——				
派閥構造から見た宏池会……………	福永 文夫	67	横 75	131
——組織・人的構成・リクルートメント——				
世界政治の理論と現実……………	星野 昭吉	67	横 133	220
——グローバル政治の現実と第三の大論争——				
証人保護のための遮蔽措置及びヴィデオ・リンク方式の合憲性（上）……………	清水 真	67	横 221	231
犯罪被害者の訴訟参加（二・完）……………	滝 沢 誠	67	横 233	258
弁証術改革と法律学……………	藤田 貴宏	67	横 259	344
——ラムス主義法学における「方法」——				
尾佐竹猛と法の雑学……………	堅 田 剛	68	1	28
——明治文化研究の一素描として——				
日本におけるコード・シヴィルの受容……………	小柳 春一郎	68	横 1	24
——法典としての民法——				
証人保護のための遮蔽措置及びヴィデオ・リンク方式の合憲性（下）……………	清水 真	68	横 25	36
法学教育と人文主義……………	藤田 貴宏	68	横 37	76
——便覧の功罪をめぐって——				
領事免除における放棄の問題……………	松田 幹夫	69	1	28
——リーディング・ケースを中心に——				

吾妻光俊の戦後労働法学………	石井保雄	69	
——ある近代主義者の肖像——			
ハイネとガンズ………	堅田剛	69	
——「法学オペラ」と『相続法』——			
合衆国憲法の二種類の弁護権と反復自白………	清水真	69	横 1 } 13
欧州連合とフランスの難民認定制度(二)………	大藤紀子	69	横 15 } 44
外国人と社会保障／国保法の解釈運用をめぐる問題点………	高佐智美	69	横 45 } 69
不上訴特権と帝国法………	藤田貴宏	69	横 71 } 131
——ダーフィット・メヴィウスの裁判権論——			
外骨雪冤祝賀会………	堅田剛	70	1 } 30
——大日本頓智研法始末——			
医療事故の届出義務に関する考察(上)………	清水真	70	横 1 } 14
地球公共悪の変革と公共財の構成………	星野昭吉	70	横 15 } 55
——現状変革志向地球公共財への理論的アプローチ——			
鑑定実務における利益衡量………	藤田貴宏	70	横 57 } 123
——クリストフ・ペーゾルトの鑑定意見から——			
戦時期の吾妻光俊の軌跡………	石井保雄	71	1 } 106
——「労働力のコントロール」理論前史——			
サヴィニーとグリム………	堅田剛	71	107 } 136
——二つの歴史法学——			

刑事医療過誤における医長の過失責任についての考察……………	清水 真	71	横 1	15
——埼玉医大耳鼻咽喉科抗腫瘍剤過剰投与事件平成一七年最決の検討を中心に——				
グローバル社会公共空間における国家主権の変容と地球公共財……………	星野 昭吉	71	横 17	68
Shall We Meet Each Other Here? ……………	劉 小林	71	横 69	85
——Prospect for a Mutual Understanding on Human Rights between the West and Chinese				
対物権概念と所有権の移転……………	藤田 貴宏	71	横 87	172
——ユルリク・ヒューベルにおける人文主義・自然法・現代的慣用——(1)				
吉野作造と明治文化研究会……………	堅 田 剛	72	1	30
——「ヘーゲルの法律哲学」から「嘆きの天使」まで——				
地球的規模の問題群と国家中心的ガバナンス……………	星野 昭吉	72	横 1	44
——現状維持志向地球公共統治と地球公共財——				
アメリカにおける人権の揺らぎ……………	高佐 智美	72	横 45	78
——移民法におけるデュープロセスの保障——				
対物権概念と所有権の移転……………	藤田 貴宏	72	横 79	138
——ユルリク・ヒューベルにおける人文主義・自然法・現代的慣用——(2・完)				
二重売買における第二買主善意……………	藤田 貴宏	72	横 139	205
——スペイン学説継受の一例として——				
伊藤博文の憲法修業……………	堅 田 剛	73	1	29
——吉野作造「スタイン、グナイストと伊藤博文」を読む——				
地球的規模の問題群の解決と脱国家中心的ガバナンス……………	星野 昭吉	73	横 1	44
——地球公共財と現状変革志向ガバナンス——				
カノン法と教会法……………	藤田 貴宏	73	横 45	116
——プロテスタント教会法学の生成——				

『西哲夢物語』事件と明治文化研究会 ——憲法制定の裏面史として——	堅田剛	74	1	31
地球公共財としてのグローバル平和 ——グローバル紛争構造と世界軍事秩序の変革——	星野昭吉	74	横1	51
別居から離婚へ..... ——17世紀プロテスタント離婚法学——(一)	藤田貴宏	74	横53	134
租税法律主義の現状と司法権の役割..... P KOにおけるアイルランド国防軍..... 有泉亭における争議行為の違法性阻却構成..... ——戦後労働法学の一断面——	阿部徳幸	74	横135	155
.....	松田幹夫	75	1	26
.....	石井保雄	75	27	100
ハイネ法学詩集..... ——詩人法律家の誕生——	堅田剛	75	101	131
世界政治の弁証法..... ——現状維持志向勢力と現状変革志向勢力のダイナミクス——(1)	星野昭吉	75	横1	36
.....	藤田貴宏	75	横37	136
別居から離婚へ..... ——17世紀プロテスタント離婚法学——(二・完)	藤田貴宏	75	横37	136
ヘーゲル哲学と法の実定性..... ——『法の哲学』の読み方について——	堅田剛	76	1	32
《共通善》としての国家..... ——トマス政治思想の基本目的——	柴田平三郎	76	33	77
世界政治の弁証法..... ——現状維持志向勢力と現状変革志向勢力のダイナミクス——(2)	星野昭吉	76	横1	36
近世封建法学の方法と法文解釈..... ——ローゼンタール『考察と概略』の方法論的分析——	藤田貴宏	76	横37	100

コモンウェルス事務局の成立……………	松田 幹夫	77	1	27
青少年社会環境と青少年保護法令の新展開……………	安部 哲夫	77	29	52
——青少年の性的保護を中心として——				
営業譲渡……………	梅田 武敏	77	53	95
——労働契約関係との関連において——				
△法△の精神とその運命……………	堅 田 剛	77	97	128
——『ヘーゲル初期神学論集』を読む——				
国際訴訟競合規制の可否に関する一考察……………	山田 恒久	77	129	157
「平等」／「差別禁止」原則について……………	大藤 紀子	77	159	187
——行政過程における「法律」の役割を考えるための一つの試み——	木 藤 茂	77	189	231
遡及増税立法違憲訴訟の論点……………	石村 耕治	77	233	284
——損益通算制限立法の遡及適用と租税法律主義——				
政治思想のソロー……………	山 口 晃	77	285	311
——『コンコード川とメリマック川の一週間』における建国と時間をめぐって——				
世界政治の現状維持志向知識体系と現状変革志向知識体系の弁証法……………	星野 昭吉	77	横 1	47
「文化的表現の多様性の保護及び促進に関する条約（文化多様性条約）」の採択と意義……………	鈴木 淳一	77	横 49	130
オランダにおける迷惑メール規制の新たな展開……………	宗田 貴行	77	横 131	155
——「カエキーナ弁護」における法解釈……………	藤田 貴宏	77	横 157	178
——ドノーとフィンネンの法解釈方法論から——				
浅井清信の労働法学……………	石井 保雄	78	1	95
——二つの「アバ（ヴァ）ン」に着目して——				

ヘルマン・ロesslerと明治憲法……………	堅田 剛	78	97
——ロessler研究の系譜——……………			129
トマス・アクイナスの《混合政体論》……………	柴田 平三郎	78	131
子会社に対する親会社株主の帳簿・書類閲覧請求権……………	周 劍龍	78	251
——アメリカ法を中心に——……………			216
フランス法における合意境界確定……………	小柳 春一郎	78	77
——土地所有権界確定と不動産取引安全——……………			
請負概念の生成……………	藤田 貴宏	78	161
——現代的慣用と人文主義法学の接点——……………			
フランス慣習法学とローマ法……………	藤田 貴宏	78	163
——「フランス共通法」とは何か——(二)……………			218
国際連合憲章第二章の注解……………	松田 幹夫	79	45
ヘーゲルの《法哲学講義》……………	堅田 剛	79	81
——三月前期の思想史として——……………			
トマス・アクイナスの暴君放伐論……………	柴田 平三郎	79	83
国家中心的国際政治と脱国家中心的世界政治のダイナミクス……………	星野 昭吉	79	46
——コミュニティアニズム志向政治勢力とコスモポリタニズム志向政治勢力——……………			149
フランス慣習法学とローマ法……………	藤田 貴宏	79	47
——「フランス共通法」とは何か——(二・完)……………			110
国際連合憲章第三章の注解……………	松田 幹夫	80	13
憲法発布直後の伊藤博文……………	堅田 剛	80	46
——大赦・義解・欧米——……………			
建物明渡猶予制度の保護対象……………	新井 剛	80	79

使途選択納税と租税の法的概念	石村 耕治	80	81
法定抵当権から先取特権へ	藤田 貴宏	80	横 1
——一七世紀における物的担保の概念——(一)			51
国際連合憲章第一六章の注解	松田 幹夫	81	1
ルドルフ・フォン・グナイストの憲法講義	堅田 剛	81	37
——「グナイスト氏談話」を読む——			70
最高裁学テ判決と「日の丸・君が代」強制	市川 須美子	81	横 1
グローバルリゼーションと「東アジア共同体」構想の理論的・実証的考察	星野 昭吉	81	横 27
——「東アジア共同体」構想と日中関係——	劉 小林	81	65
法定抵当権から先取特権へ	藤田 貴宏	81	横 67
——一七世紀における物的担保の概念——(二)			150
売却のための保全処分に関する一考察(一)	新井 剛	81	71
津曲藏之丞の戦前・戦時期における理論軌跡	石井 保雄	82	1
——石崎政一郎との比較を通じて考える——			156
売却のための保全処分に関する一考察(二・完)	新井 剛	82	157
国庫の先取特権	藤田 貴宏	82	横 1
——人文主義法学と現代的慣用の接点その二——(一)			62
国庫の先取特権	藤田 貴宏	82	横 1
——人文主義法学と現代的慣用の接点その二——(二・完)			233
地球公共財の構築と日中関係	星野 昭吉	84	横 1
——地球公共悪変革のための日中関係の模索——	劉 小林	84	63
フランス法における強制退去(明渡し)	小柳 春一郎	84	横 65
……質料不払い・空家不法占拠と警察上援助拒絶			157

世界保健機関(WHO)・国際保健規則(IHR二〇〇五)の発効と課題	鈴木 淳一	84	横 159
——国際法の視点から——			}
法定抵当権から先取特権へ	藤田 貴宏	84	横 263
——一七世紀における物的担保の概念——(三・完)			}
トマス・アクイナスの《正戦論》	柴田 平三郎	85	横 1
定期金の概念と類型	藤田 貴宏	85	横 1
——典拠分析による学説史概観——(一)			}
日本における政教分離原則の機能的な考察	大藤 紀子	86	横 1
La portée du principe d'égalité ou de non-discrimination dans l'ordre juridique japonais	Noriko OFUJI	86	横 1
《神の統治》と《人間の統治》	柴田 平三郎	86	横 39
——トマス・アクイナスにおける「教会と国家」			}
偶然防衛における法益保全結果の帰属と違法減少	内山 良雄	86	横 29
定期金の概念と類型	藤田 貴宏	86	横 45
——典拠分析による学説史概観——(二)			}
情報法と公法と私法の区別(二)	多賀谷 一照	87	横 1
定期金の概念と類型	藤田 貴宏	87	横 1
——典拠分析による学説史概観——(三)			}
税財政規律と国民災害保険制度の是非	石村 耕治	87	横 33
——アメリカでの大震災被災者支援と税財政規律論議			}
東日本大震災と生命権・生存権	山内 敏弘	88	横 1
法の神学	堅田 剛	88	横 41
——法文化論のために・その一——			}
消費貸借における擬制と定期金売買	藤田 貴宏	88	横 1
			}

自国民不引渡し原則についての疑問 ——リーディング・ケースを中心に——	松田 幹夫	89	1	24
法の詩学 ——法文化論のために・その二——	堅 田 剛	89	25	55
情報法と公法と私法の区別 (二)	多賀谷 一照	89	57	74
定期金の概念と類型 ——典拠分析による学説史概観—— (四)	藤 田 貴宏	89	横 1	88
池田政権の対欧州外交 ——「経済外交」と「冷戦」の交錯——	鈴木 宏尚	89	75	109
政治犯罪人不引渡し原則の問題性 ——リーディング・ケースを中心に——	松 田 幹夫	90	1	23
法の哲学 ——法文化論のために・その三——	堅 田 剛	90	25	54
中国における中央銀行法制の現状と課題	周 劍 龍	90	横 1	29
世界保健機関(WHO)・国際保健規則(IHR二〇〇五)の国内実施 ——日本国を例として——	鈴木 淳一	90	横 31	129
情報法と公法と私法の区別 (三) 完	多賀谷 一照	90	55	75
定期金の概念と類型 ——典拠分析による学説史概観—— (五・完)	藤 田 貴宏	90	横 131	227
憲法九条と集团的自衛権	山内 敏弘	91	1	66
菊池勇夫の「社会法」論 ——戦前・戦時期の業額を通じて考える——	石井 保雄	91	67	180
中国における銀行業に対する行政的監督管理の法構造と課題	周 劍 龍	91	横 1	24

共同担当における二つの地位……………	藤田 貴宏	91	181
規制緩和時代の私立大学運営と税財政法務……………	石村 耕治	91	25
中国における商業銀行の法構造の現状と課題……………	周 劍龍	92	1
ヘイト・スピーチ再訪(一)……………	成 嶋 隆	92	29
相続と嫁資合意……………	藤田 貴宏	92	63
——現代的慣用とは何か——(一)……………			124
特定秘密保護法の批判的検討……………	山内 敏弘	93	1
わが国労働法学の黎明……………	石井 保雄	93	45
——昭和年代前期における孫田秀春の足跡をたどる——			151
フォイエールバツハとサヴィニー……………	堅 田 剛	93	153
——法典論争外伝——			185
ヘイト・スピーチ再訪(二)……………	成 嶋 隆	93	1
相続と嫁資合意……………	藤田 貴宏	93	69
——現代的慣用とは何か——(二)……………			141
公文書管理と行政法……………	木 藤 茂	93	187
買受人のための保全処分と引渡命令に関する一考察(一)……………	新 井 剛	93	235
中国における外資銀行法制の構造と課題……………	周 劍龍	93	143
アイルランドの憲法体制における国際法……………	松田 幹夫	94	1
——リーディング・ケースを中心に——			23
若きヘーゲルの宗教論、あるいは「律法」と「道徳」の弁証法……………	堅 田 剛	94	25
相続と嫁資合意……………	藤田 貴宏	94	1
——現代的慣用とは何か——(三)……………			80

二重課税とは何か……………	石村 耕治	94	横 81
電子商取引全盛時代の二重課税の概念とは……………			209
少年刑事手続きに関する二〇一四年少年法改正とフィンランドにおける少年法制の現在……………	齋 藤 実	94	57
若きヘーゲルの《国制》論……………	堅 田 剛	95	1
——『ドイツ憲法論』をめぐって——……………			30
「原子力損害の賠償に関する法律」昭和四六年改正と事業者責任制限（一）……………	小柳 春一郎	95	横 1
相続と嫁資合意……………	藤 田 貴宏	95	横 69
——現代的慣用とは何か——（四）……………			149
イングランド法への国際慣習法の編入および変型……………	松 田 幹夫	96	1
わが国労働法学の生誕……………	石 井 保雄	96	21
——戦前・戦時期の末広厳太郎——……………			145
カナダにおける職場いじめ・暴力に対する法規制……………	石 井 保雄	96	横 1
——ケベック州における心理的ハラスメント法制とオンタリオ州の職場の暴力とハラスメント禁止法——……………			68
ヘーゲルの《点》、あるいは立憲君主制について……………	堅 田 剛	96	147
——《点》とは何か——……………			179
「原子力損害の賠償に関する法律」昭和四六年改正と事業者責任制限（二）……………	小柳 春一郎	96	横 69
相続と嫁資合意……………	藤 田 貴宏	96	横 119
——現代的慣用とは何か——（五）……………			179
フランス法における無届非営利団体の法的能力と部分的法人格……………	納 屋 雅城	96	横 181
搾取的濫用行為と独禁法上の行政及び民事的エンフォースメント……………	宗 田 貴行	96	横 195
——ドイツ競争制限禁止法における議論を参考にして——（上）……………			309
フィンランドにおける女子受刑者処遇の現在（いま）……………	齋 藤 実	96	181
——子どもにいる女子受刑者の処遇（「家族ユニット」を中心にしつつ）——……………			206

搾取的濫用行為と独禁法上の行政及び民事的エンフォースメント……………宗田 貴行 97
 ——ドイツ競争制限禁止法における議論を参考にして——(下)……………横 1 } 73

裁判例における権利能力なき社団概念の機能……………納屋 雅城 97
 ………………横 75 } 96

中国における商業銀行のコーポレート・ガバナンス……………周 劍龍 97
 ………………横 97 } 130

ドイツの犯罪学における近時の研究指導体制と教育状況(二)……………神馬 幸一 98
 ………………横 1 } 17

フランス法における届出非営利社団・公益認定非営利社団の法的能力……………納屋 雅城 98
 ………………横 19 } 28

——小さな法人格と大きな法人格——……………齋藤 実 98
 ………………横 1 } 18

ノルウェーにおける犯罪被害者庁の現在(いま)……………松田 幹夫 99
 ………………横 1 } 23

——関連する国内判決——……………石井 保雄 99
 ………………横 25 } 175

戦前・戦中期における後藤清の社会学……………神馬 幸一 99
 ………………横 1 } 38

——時代の伴走者の記録——……………

ドイツの犯罪学における近時の研究指導体制と教育状況(二・完)……………

研究ノート

Joint Venture に つ づ くの 一 素 描……………平井 一雄 1
 ………………横 127 } 144

未必の故意雑感……………出射 義夫 7
 ………………横 63 } 68

自衛隊裁判と軍事機密(一)……………山内 敏弘 7
 ………………横 69 } 89

——小西反軍裁判第1審判決に関連して——……………

不動産賃借権の無断譲渡と無断転貸の犯罪性……………	清野 惇	9	63
——不動産侵奪罪の成否を中心として——			81
ニュージールランド会社法における取締役および取締役会……………	青木 英夫	10	83
ミシガン州の刑事司法について……………	松本 一郎	11	115
ニュージールランド会社法における総会……………	青木 英夫	11	144
ニュージールランドにおける会社の設立(上)……………	青木 英夫	12	145
——ニュージールランド会社法研究Ⅲ(1)——	青木 英夫	12	166
ニュージールランドにおける会社の設立(下)……………	青木 英夫	13	166
——ニュージールランド会社法研究Ⅲ(2)——	青木 英夫	13	173
ニュージールランド会社法における計算書類および監査役……………	青木 英夫	14	25
——ニュージールランド会社法研究Ⅳ——			74
ニュージールランド会社法における株式および資本(上)……………	青木 英夫	15	89
——ニュージールランド会社法研究Ⅴ(1)——			132
わが国における脱刑事司法過程……………	横山 実	15	133
ニュージールランド会社法における株式および資本(中)……………	青木 英夫	16	133
——ニュージールランド会社法研究Ⅴ(2)——			138
ニュージールランド会社法における株式および資本(下)……………	青木 英夫	17	61
——ニュージールランド会社法研究Ⅴ(3)——			101
ニュージールランドにおける会社の借財能力(上)……………	青木 英夫	19	35
——ニュージールランド会社法研究Ⅵ(1)——			63
ニュージールランドにおける会社の借財能力(下)および私会社……………	青木 英夫	20	189
——ニュージールランド会社法研究Ⅵ(2)・Ⅶ——			210
犯罪・犯罪者と刑罰……………	来栖 宗孝	20	211
——マルクス・エンゲルス余滴——			234

会社の再建、合併および株式の公開買付 ——ニュージールランド会社法研究 VIII——	青木 英夫	21	111
会社の社会的責任について	青木 英夫	22	155
西ドイツにおける仮執行制度 ——一九七七年簡素化法の一断面——	森 勇	25	73
トリーベル研究ノート ——『憲法と政党』の一考察——	加藤 一彦	25	89
Japan and the United Nations Forces	松田 幹夫	31	169
ドイツにおける政党への国家財政援助の憲法問題	加藤 一彦	33	181
表現の自由と女性差別 ——ポルノグラフィ規制は道德の問題か女性差別の問題か——	池端 忠司	34	251
フランスにおける違法性の錯誤	只 木 誠	35	91
代理権限濫用行為と過失相殺 ——本人に監督義務違反ある場合——	平山 也寸志	37	141
二二六事件北・西田裁判記録(一)	松本 一郎	38	1
二二六事件北・西田裁判記録(二)	松本 一郎	39	1
観念的競合の明示機能について ——不真正結果的加重犯の競合問題を素材として——	只 木 誠	39	77
相殺の期待保護 ——ドイツにおける判例学説について——	石垣 茂光	39	111
建築と情報公開 ——建築基準法の一断面——まち作りと情報公開	荒 秀	40	293
二二六事件北・西田裁判記録(三)	松本 一郎	40	313
			398
			311
			151
			109
			80
			59
			173
			110
			288
			191
			183
			125
			88
			171

相殺適状が与える両債権への影響について……………	石垣 茂光	40	399
——当然消滅主義から意思表示による相殺への変遷——			445
代理論史……………	平山 也寸志	40	447
——代理権濫用論を中心に——			514
二二六事件北・西田裁判記録(四・完)……………	松本 一郎	41	447
米国オハイオ州における家庭ごみ収集と再生資源回収の実際……………	久松 一恵	43	357
——地方自治体の広報(一九九四～一九九五年)より——			374
相殺における担保的機能論に関する一考察……………	石垣 茂光	43	375
——相殺の第三者効を導く理由付けについて——			469
ドイツにおける「汚職対策(政治腐敗防止)法」について(一)……………	只木 誠	46	287
日韓建築法比較研究ノート……………	荒 秀	46	315
——抵当権の性質について……………	太矢 一彦	46	447
——抵当権価値権論への一疑問——			479
占領下における軍政部徴税督励……………	小柳 春一郎	47	117
ドイツにおける「汚職対策(政治腐敗防止)法」について(二)……………	只木 誠	47	449
Das Gesetz zur Bekämpfung der Korruption vom 13. und 20. August 1997……………	只木 誠	47	161
——Vergleich mit der gesetzlichen Regelung in Japan——			178
抵当権の物権性について……………	太矢 一彦	48	167
——フランスにおける学説を中心として——			201
ドイツにおける「汚職対策(政治腐敗防止)法」について(三・完)……………	只木 誠	49	177
賃料債権に対する抵当権者の物上代位について(二)……………	太矢 一彦	49	229
——物上代位の公示と第三者との関係をめぐって——			290

尊属殺重罰と法の下の平等……………	申	先雨	49	横	103
——日本と韓国の比較法的観点から——					
割賦販売の基本判例(1)……………	後藤	巻則	50	169	201
質料債権に対する抵当権者の物上代位について(2)……………	太矢	一彦	50	203	237
——物上代位の公示と第三者との関係をめぐって					
ドイツにおけるコンツェルン法の成立史(1)……………	坂本	延夫	50	239	275
——H. U. Dethingの所説を中心として	佐藤	文彦			
法律学におけるデータベースおよびインターネットの活用……………	明田川	昌幸	50	横	1
ドイツにおけるコンツェルン法の成立史(2)……………	坂本	延夫	51	37	109
——H. U. Dethingの所説を中心として——	佐藤	文彦			
情報公開——一九九九年……………	右崎	正博	51	横	1
無体財産権侵害における実施料相当額の損害賠償と不当利得……………	花本	広志	54	169	194
——ロルフ・ザック「無体財産権法の体系におけるライセンス・アナロジー」の紹介を中心として——					
ドイツにおける青少年有害図書規制と連邦審査会……………	安部	哲夫	55	79	95
いわゆる「時効の期間の転換」について……………	平井	一雄	56	47	59
情報公開——二〇〇〇年——二〇〇一年……………	右崎	正博	57	横	1
ドイツ有価証券取得及び支配獲得法(WPÜG)と敵対的企業買収における将来の局外株主の利益保護……………	佐藤	文彦	58	69	196
韓国「国家人権委員会法」の成立と施行経過……………	申	先雨	59	横	81
昭和三〇年代の借地借家法改正法案における「正当事由」条項(1)……………	小柳	春一郎	60	横	1
Overview of Implementation of Japan's Information Disclosure Act……………	右崎	正博	61	横	217
アメリカ＝ヨルダン自由貿易地域協定……………	櫻井	雅夫	61	横	227
					275

証券会社による自約（介入）取引の法的性質……………	柴崎 暁	63	横 145
——フランス法における吞行為合法化小史——			166
自動車ナンバー自動読取システム（Nシステム）事件……………	小林 直樹	68	横 77
表現の自由と「鬭争的言辞（Fighting words）」法理の展開……………	小林 直樹	69	横 133
オットー・ルドルフ（一八四五—一九二二）について……………	小柳 春一郎	73	横 117
——東京大学ドイツ法講師から司法省顧問・裁判所構成法原案起草者へ（付・明治一八年九月「裁判所組織及裁判手続ニ関スル意見」）——			177
フランス離婚法がわが国離婚法に与える影響について……………	大杉 麻美	77	313
——二〇〇四年五月二六日法を手がかりとして——			333
世界保健機関（WHO）・新国際保健規則（IHR）の概要……………	鈴木 淳一	78	横 219
「沖縄密約」ノート……………	福永 文夫	81	97
——原状回復補償費四〇〇万ドルに関する一つの証言——			124
フランス法における商事貸借と再建型債務整理手続……………	小柳 春一郎	87	横 67
フィリップ・アロット『ユーノミア』における国際社会の文化について……………	鈴木 淳一	87	横 115
インターネット上の契約及び不法行為の国際裁判管轄に関する我が国の学説の展開……………	山田 恒久	88	69
原子力災害補償専門部会（昭和三三年）と「原子力損害の賠償に関する法律」（一）……………	小柳 春一郎	89	横 89
ベルギー政治学とジェンダー・クオータ……………	津田 由美子	89	横 145
原子力災害補償専門部会（昭和三三年）と「原子力損害の賠償に関する法律」（二）……………	小柳 春一郎	90	横 229
池田外交研究の課題……………	鈴木 宏尚	90	77
——新たな引照枠組みを求めて——			94
原子力災害補償専門部会（昭和三三年）と「原子力損害の賠償に関する法律」（三）……………	小柳 春一郎	91	横 109
原子力災害補償専門部会（昭和三三年）と「原子力損害の賠償に関する法律」（四）……………	小柳 春一郎	92	横 125

アメリカで新たに誕生した税務専門職制度……………	石村 耕治	92	横 267
——登録納税申告書作成士(RTRP)——			
原子力災害補償専門部会(昭和三三年)と「原子力損害の賠償に関する法律」(5)……………	小柳 春一郎	93	横 167
原子力災害補償専門部会(昭和三三年)と「原子力損害の賠償に関する法律」(6)……………	小柳 春一郎	94	横 211
二〇一四年の西アフリカにおけるエボラ出血熱の流行への国際社会の対応……………	鈴木 淳一	98	横 29
——国際法の視点から——			66

書 評

K. F. Bertram, <i>Widerstand und Revolution: Ein Beitrag zur Unterscheidung der Tatbestände und ihrer Rechtsfolgen</i> , 1964	山内 敏弘	1	145
J. E. S. Fawcett, <i>The British Commonwealth in International Law</i> , 1963……………	松田 幹夫	7	91
E. Plischke(ed.), <i>Systems of Integrating the International Community</i> , Princeton, D. Van Nostrand Company, Inc., 1964, ix + 198pp. ……	松田 幹夫	9	83
S. Ercman, LL.M(ed), <i>European Environmental Law, Legal and Economic Appraisal</i> 1977 ……	綿貫 芳源	13	75
宮崎良夫著「行政訴訟の法理論」……………	綿貫 芳源	21	133
Gernot Biehler, <i>International Law in Practice: An Irish Perspective</i> ……	松田 幹夫	76	横 101
大野真義『罪刑法定主義(新訂第二版)』世界思想社(二〇一四)……………	神馬 幸一	97	横 205
『社会科学としての日本外交研究: 理論と歴史の統合をめざして』(川崎剛著)	岡垣 知子	99	横 59
ミネルヴァ書房、二〇一五年……………			65

判例研究

老令福祉年金における夫婦受給制限は、憲法一四条一項に違反するか……………	松嶋 由紀子	1	166
自衛隊法五九条一項違反の罪の成立を認めた事例……………	山内 敏弘	4	117
1. パリ条約四条にもとづく優先権の主張と特許法一〇四条の推定規定の適用……………	古 沢 博	5	89
2. 特許法一〇四条により侵害行為が推定された場合における差止請求の対象の特定方法……………	清 野 惇	6	143
いわゆる国鉄久留米駅事件最高裁判決について……………	平 井 一 雄	6	171
贈与物の返還請求が認められた事例……………	橋本 恭宏	9	97
土地の賃借人が借地上の子名義で登記を経由した建物を所有する場合と建物保護法に関する法律一条の対抗力……………	大 宮 莊 策	13	83
殉職自衛官護国神社合祀拒否損害賠償等請求事件判決……………	高 島 良 一	14	75
——昭和五四年三月二二日 山口地方裁判所判決——			87
企業施設と組合活動——とくにビラ貼りについて……………	辻 伸 行	19	65
最高裁判所昭和四九年（オ）一一八八号 昭和五四年一〇月三〇日判決（三小）国鉄札幌事件……………			76
最高裁昭和五七年六月一七日第一小法廷判決……………	奈 良 俊 夫	40	515
（昭和五六年（オ）七四二号、建物収去土地明渡請求事件）……………	佐 藤 文 彦	48	205
盗犯等の防止及び処分に関する法律一条一項の正当防衛の成立要件……………	森 勇	49	291
ドイツ倒産法判例紹介（一）……………	高 佐 智 美	51	111
ドイツ倒産法判例紹介（二）……………	石 垣 茂 光	51	135
戦後補償裁判と「国籍条項」……………	太 矢 一 彦	51	169
ドイツ倒産法判例紹介（三）……………			185
遺産分割協議と詐害行為取消権……………			185

買戻特約付売買の目的不動産に設定された抵当権に基づく買戻代金債権に対する

物上代位権の可否……………

情報公開法による自己情報開示請求……………

——法律扶助協会指導等調査報告書開示請求訴訟——

大阪府土地開発公社が個人および法人から買収した土地の買収価格等に関する情報が

情報公開条例所定の不開示情報に当たらないとされた事例……………

取立委任裏書の抹消と譲渡担保としての手形債権の移転時期……………

——福岡高判平成一九・二・三判時一九七三号一五八頁——

詐取された再発行カードによる預金払戻しと預貯金者保護法・再論……………

——大阪地判平成二〇年四月一七日判例時報二〇〇六号八七頁——

政教分離からみた宗教法人が行うベツト葬祭の税務収益事業該当性……………

公開買付勧誘目的及び委任状勧誘目的による株主名簿閲覧謄写請求とその拒絶事由……………

——東京地決平成二四・二二・二二金判一四〇八号五二頁——

権利能力なき社団と登記請求権の代位行使……………

非上場会社における第三者割当による新株発行と取締役の対会社責任……………

——最判平二七・二・一九金判一四六四号二二頁——

資料(翻訳・報告・講演等)

「浅田徳則明治七年使米日記」……………	刘田 徹	13	
高校「現代社会」における教科書検定の実態……………	山内 敏弘	17	111
テイクオーバーと合併に関するシテイ・コード(一九八一年二月改正版)……………	石山 卓磨(訳)	18	271 304
			103 144
			111 115

太矢 一彦	52	151
小林 直樹	70	125 139
小林 直樹	71	173 186
周 劍 龍	81	125 140
新 井 剛	83	1
石村 耕治	88	49 86
大川 俊	92	1 32
納屋 雅城	94	283 301
大川 俊	98	67 87

日本における最近の行政改革……………	西村 正紀	32	177
日本の官僚制……………	鈴木 和晋	32	195
——その由来、変遷そして現在——			218
中国における行政管理の現状と課題……………	趙 履寬	32	219
	伍 岳中(訳)		227
中国の行政……………	伍 岳中	32	229
——現状とその改革——			241
中国の財政制度……………	陳 建	32	243
韓国の地方自治制度……………	徐 元宇	32	263
シーグル『法の探求』(一九四一年) 第21章 自然と諸国民の法……………	西村 克彦(訳)	34	289
イギリス家族法原理——離婚法の部(Ⅲ)……………	松嶋由紀子(訳)	35	111
Stephen McCreney, Bristol 大学教授			141
英国の離婚——法の展開とその社会的背景……………	松嶋 由紀子	37	119
一種再開発と収用委員会……………	荒 秀	41	533
	金子 正史		559
アメリカ法教育の最近の潮流……………	グスタフ・アール・ロハンナ	44	23
情報公開と私生活の秘密保護……………	成 樂 寅	47	95
言論機関の税務調査に関する情報の公開拒否判例を中心として			106
古代オリエントにおける私的不正に対する制裁……………	ゲルハルト・リース	47	107
——刑法と損害賠償の発端と発展とについて			116
〔私訳〕「ドイツ」連邦弁護士法」(一)……………	森 勇	52	1
——ドイツ弁護士制度関連規定邦訳(1)——			42

〔私訳〕 ドイツ「連邦弁護士法」(二)……………	森	勇	53	横 1	37
——ドイツ弁護士制度関連規定邦訳(1—2)——					
〔私訳〕 ドイツ「連邦弁護士法」(三)……………	森	勇	54	横 1	27
——ドイツ弁護士制度関連規定邦訳(1—3)——					
刑法及び、答責性によるその構想……………	只木	誠(訳)	56	33	46
——帰責能力とはなにか—— ハンス・リルト・ヴィッヒ・シュライバー					
ドイツの投資奨励保護協定……………	櫻井	雅夫	56	横 55	90
ドイツにおける対外文化政策……………	只木	誠(訳)	57	99	108
フォルカ・クライン……………					
中国の「上場会社のコーポレート・ガバナンスの原則」(翻訳)……………	周	劍龍	57	109	130
Stokje 村事件(1)……………	小林	直樹	57	横 37	73
韓国情報公開法改正案……………	右崎	正博	58	横 59	70
不適格候補者の落選運動と選挙運動期間の制限……………	申	先雨	58	横 95	116
——韓国憲法裁判所最新判例紹介——					
倒産手続における共同損害の清算(翻訳)……………	森	勇(訳)	58	横 71	94
ラインハート・ボーク……………	小田	司(訳)	58	横 71	94
Stokje 村事件(2)……………	小林	直樹	59	横 33	79
新倒産法のめざすところ(翻訳)……………	森	勇(訳)	59	横 1	32
マンフレッド・プアルツ……………					
(新倒産法の一般手続き諸原則(翻訳)……………	森	勇(訳)	60	横 31	70
ハンス・ブリュッティンゲ……………					
Stokje 村事件(3)……………	小林	直樹	60	横 71	118

激動期にある司法システム……………	森 勇	61	横	277
ペーター・ギレス(著)	金井幸子(訳)		横	208
新倒産法に基づく変更解約告知および終了解約告知(1)(翻訳)	森 勇	63	横	167
フランツ・ヨーゼフ・デウベル	金井幸子(訳)		横	208
「独逸協会学校」教師としてのゲオルク・ミヒャエリス(1)	堅田 剛(訳)	64	横	239
——『国家と国民のために』より——			横	263
新倒産法に基づく変更解約告知および終了解約告知(2完)	森 勇	64	横	265
フランツ・ヨーゼフ・デウベル	金井幸子(訳)		横	316
離婚の国際裁判管轄に関する一考察(上)	山田 恒久	64	横	317
若きライプニッツの法解釈方法論……………	藤田貴宏(訳)	64	横	347
「独逸協会学校」教師としてのゲオルク・ミヒャエリス(2・完)	堅田 剛(訳)	65	横	117
——『国家と国民のために』より——			横	140
離婚の国際裁判管轄に関する一考察(下)	山田 恒久	66	横	89
(翻訳) ヘラルト・ノートの人文主義法学論……………	藤田貴宏(訳)	68	横	107
文化的表現の多様性の保護及び促進に関する条約(文化多様性条約)(仮訳)	鈴木淳一(訳)	71	横	187
ユルリク・ヒューベルの自然法論……………	藤田貴宏(訳)	71	横	209
ヤコブ・グリムのサヴィニー宛書簡(1814年10月29日付)	堅田 剛(訳)	72	横	207
——『立法と法学に対する現代の使命』と『法の内なるボエジー』——			横	226
オランダの社会治療処分 その現状と課題……………	安部 哲夫	73	横	179
——ペーター・タック教授の講演から——			横	204
法務図書館所蔵・裁判所構成法関連・オットー・ルドルフ文書の紹介……………	小柳 春一郎	74	横	157
(翻訳) アンヌ・リオン・クレマンソン著 借地と都市整備……………	小柳春一郎(訳)	74	横	201
——フランス・リオン市民病院の貸地経営(二七八—一九一四)——(1)			横	247

ドイツの「権限順応法」(Zuständigkeitsanpassungsgesetz) について	木 藤 茂	74	横	249
(翻訳) ユルリク・ヒューベルの離婚論	藤田貴宏(訳)	74	横	261
(翻訳) アンヌ・ソフィー・クレマンソン著 借地と都市整備	小柳春一郎(訳)	75	横	137
——フランス・リヨン市民病院の貸地経営(二七八—一九一四)——(2)			横	155
(翻訳) シーモン・ファン・レーウエンの離婚論	藤田貴宏(訳)	75	横	157
法務図書館所蔵・裁判所構成法関連文書の紹介	小柳春一郎	76	横	107
——明治二〇年独・英・仏語原案(1)——			横	154
ドイツの「行政送達法」(Verwaltungszustellungsgesetz) について	木 藤 茂	76	横	155
——行政行為の「告知」及び「送達」の概念の再確認とこれに			横	182
ハインリッヒ・フォン・ローゼンタールの二重授封論	藤田貴宏(訳)	76	横	183
法務図書館所蔵・裁判所構成法関連文書の紹介	小柳春一郎	77	横	179
——明治二〇年独・英・仏語原案(2)——			横	205
(翻訳) アンヌ・ソフィー・クレマンソン著 借地と都市整備	小柳春一郎(訳)	78	横	269
——フランス・リヨン市民病院の貸地経営(二七八—一九一四)——(3)			横	302
デュ・ムーランとコキューの慣習法論	藤田貴宏(訳)	78	横	303
法務図書館所蔵・裁判所構成法関連文書の紹介	小柳春一郎	79	横	111
——明治二〇年独・英・仏語原案(3)——			横	140
クロード・ド・フェリエルの慣習法論	藤田貴宏(訳)	79	横	141
現代的慣用における抵当権者の順位	藤田貴宏(訳)	80	横	53
法院判決における「特権化された抵当権」	藤田貴宏(訳)	81	横	151
A・F・J・テイボーとロベルト・シューマン(二)	堅田 剛(訳)	82	横	235
——ヴォールハウプター著『詩人法律家』その一——			横	264

クリステイアン・フリードリヒ・グリユックの国庫先取特権論……………	藤田貴宏(訳)	82	横	63
A・F・J・テイボーとロベルト・シューマン(二・完)……………	堅田 剛(訳)	83	27	65
——ヴォールハウプター著『詩人法律家』その二——				
一七世紀ネーデルラントにおける法文間矛盾論……………	藤田貴宏(訳)	83	横	115
チエコ共和国新刑法典(資料・試訳)……………	若尾 岳志	83	横	129
——犯罪論(§1―35)及び生命・健康に対する罪(§140―167)——			129	168
ハインリヒ・ハイネ(一)……………	堅田 剛(訳)	84	1	53
——ヴォールハウプター著『詩人法律家』その二——				
ジュリアン・ブロードーとクロード・ド・フェリエールのパリ慣習法第一七〇条注釈……………	藤田貴宏(訳)	84	横	381
ハインリヒ・ハイネ(二・完)……………	堅田 剛(訳)	85	51	121
——ヴォールハウプター著『詩人法律家』その二——				
ルイス・デ・モリナの定期金類型論……………	藤田貴宏(訳)	85	横	61
E・T・A・ホフマン(一)……………	堅田 剛(訳)	86	89	153
——ヴォールハウプター著『詩人法律家』その三——				
シャルル・デュ・ムーランの賃租概念論……………	藤田貴宏(訳)	86	横	111
E・T・A・ホフマン(二・完)……………	堅田 剛(訳)	87	17	41
——ヴォールハウプター著『詩人法律家』その三——				
普通ザクセン法学の世襲賃租論……………	藤田貴宏(訳)	87	横	151
フランチェスコ・マンティカの永代賃借概念論……………	藤田貴宏(訳)	88	横	87
エフェラルツとメノツキオの定期金推定論……………	藤田貴宏(訳)	89	横	163
ナポリ王国における授封物の定期金……………	藤田貴宏(訳)	90	横	303
			315	176
			99	167

相続に関する嫁資合意……………	藤田貴宏(訳)	91	横	263	274
——ヒエロニムス・シュルフの鑑定意見から——					
シユトリユークの嫁資合意論……………	藤田貴宏(訳)	92	横	313	324
Les transformations et l'avenir du droit du travail vus du Japon ……	石井 保雄	93	横	421	447
普通ザクセン法における嫁資合意……………	藤田貴宏(訳)	93	横	449	475
普通ザクセン法における寡婦相続権と嫁資合意……………	藤田貴宏(訳)	94	横	303	331
リユーベック法における配偶者相続権と嫁資合意……………	藤田貴宏(訳)	95	横	151	183
——ダーフィット・メヴィウス『リユーベック法注解』から——					
立法資料：「原子力損害の賠償に関する法律案想定問答 昭和三五年五月 原子力局」……………	小柳 春一郎	96	横	311	359
ブランデンブルク法における夫婦間相続と嫁資合意……………	藤田貴宏(訳)	96	横	361	375
立法資料：「原子力損害の賠償に関する法律案想定問答 昭和三六年三月 原子力局」……………	小柳 春一郎	97	横	131	173
贈与・終意処分・嫁資合意……………	藤田貴宏(訳)	97	横	175	203
——カスパー・マンツ『フアルツ判決百選』から——					
ジャック・コンブレ「相続処理におけるフランス公証人の役割・相続登記未了問題解決のために」……………	小柳春一郎(訳)	98	横	89	124
ペーゼラーの相続契約学説史(上)……………	藤田貴宏(訳)	98	横	125	149
ペーゼラーの相続契約学説史(下)……………	藤田貴宏(訳)	99	横	39	58
ダニエル・ポルヴェリ「コルシカにおける不動産承認の特質：相続登記未了問題の解決のために」……………	小柳春一郎(訳)	99	横	67	94
原子力損害の賠償に関する法律(原賠法、一九六一年)の立案経緯と制度見直しの論点……………	小柳 春一郎	99	横	95	146